



A 試合会場レポート

試合番号 306

開催日 2018/05/04

第67回黒鷲旗全日本男女選抜バレーボール大会 女子 会場：丸善インテックアリーナ

観客数： 3,500	開始時間： 12:07	終了時間： 14:38	試合時間： 02:31	主審： 明井 寿枝	副審： 北村 友香
------------	-------------	-------------	-------------	-----------	-----------

岡山シーガルズ



監督：河本 昭義
コーチ：吉田 啓佑

通算： - 勝 - 敗
ポイント： -

2	25	第1セット 【 00:25 】	23	3
	25	第2セット 【 00:24 】	21	
	20	第3セット 【 00:29 】	25	
	22	第4セット 【 00:30 】	25	
	21	第5セット 【 00:31 】	23	

ポイント 【】内はセット時間
()内は交代選手

J Tマーヴェラス



監督：吉原 知子
コーチ：丹山 禎昭

通算： - 勝 - 敗
ポイント： -

<監督コメント>

第3セット中盤、加速すべき2枚替えが相手につけこまれる結果となった。その責任を果たした試合はセット、ゲームに勝利しているケースも多々あったが、各自が出るからには、一層の重みを感じながらやりきる必要がある。

全体的には第1、2セットも相手の勢いに押されながらうまくかわした試合展開であったので、V・プレミアチームに3連勝するには、個々やチームの壁を超えきらないとダメであるという事が改めて認識された。

大応援団の期待に十分とはいかなかったが、半ば応えられた。来季への布石にしていきたい。

連日の大声援、本当にありがとうございました。

<監督コメント>

大会も5日目に入り選手達も疲労がピークとなっている中、フルセットの戦いを勝ち切ってくれた選手達を讃えたい。

相手の岡山シーガルズの驚異的なディフェンスの前に試合序盤はリズムが悪かったが、試合中盤、終盤は相手に負けない粘りとハードワークが出来ていたと思う。

明日はリーグのファイナルで敗れた久光製薬が相手なので、挑戦者の気持ちを忘れないで、シーズン最後の試合を楽しみたいと思う。

本日もたくさんのご声援、ありがとうございました。

25	佐々木 萌 ()	渡邊 真恵 ()	第1セット	林 琴奈 ()	田中 美咲 ()	23
	川島 亜依美 (居村 杏奈)	大楠 鼓雪 ()		木村 千春 ()	小川 杏奈 ()	
	宮下 遥 ()	西村 弥菜美 ()		金杉 由香 (目黒 優佳)	橋井 友香 ()	

リベロ： 檜崎 慈恵

リベロ： 小幡 真子

25	居村 杏奈 ()	佐々木 萌 ()	第2セット	林 琴奈 (目黒 優佳)	田中 美咲 ()	21
	宮下 遥 ()	渡邊 真恵 ()		木村 千春 ()	小川 杏奈 ()	
	西村 弥菜美 (金田 修佳)	大楠 鼓雪 ()		金杉 由香 ()	橋井 友香 ()	

リベロ： 檜崎 慈恵

リベロ： 小幡 真子

20	佐々木 萌 ()	渡邊 真恵 (小野寺 夏希)	第3セット	林 琴奈 ()	田中 美咲 ()	25
	居村 杏奈 ()	大楠 鼓雪 ()		木村 千春 (橋本 梨紗)	小川 杏奈 ()	
	宮下 遥 (磯部 光里)	金田 修佳 (吉岡 美晴)		金杉 由香 ()	橋井 友香 (目黒 優佳)	

リベロ： 檜崎 慈恵

リベロ： 小幡 真子

22	居村 杏奈 (渡邊 真恵)	西村 弥菜美 (吉田 みなみ)	第4セット	林 琴奈 ()	田中 美咲 ()	25
	宮下 遥 ()	佐々木 萌 ()		橋本 梨紗 (山本 美沙)	小川 杏奈 ()	
	金田 修佳 ()	川島 亜依美 ()		金杉 由香 ()	目黒 優佳 ()	

リベロ： 檜崎 慈恵

リベロ： 小幡 真子

21	川島 亜依美 ()	佐々木 萌 ()	第5セット	林 琴奈 ()	田中 美咲 ()	23
	宮下 遥 ()	渡邊 真恵 (大楠 鼓雪)		橋本 梨紗 (山本 美沙)	小川 杏奈 (橋井 友香)	
	西村 弥菜美 (金田 修佳)	居村 杏奈 ()		金杉 由香 ()	目黒 優佳 ()	

リベロ： 檜崎 慈恵

リベロ： 小幡 真子

<要約レポート>

岡山シーガルズとJTマーヴェラスによる準決勝第2試合は、手に汗握る接戦となった。前日にフルセットの激戦を制して勢いにのる岡山は、セッターの宮下が多彩な攻撃を組み立て、第1、第2セットを連取する。対するJTは、サーブで相手レシーブを崩して得点に繋げ、目黒、林がストレートコースを狙ったスパイクを要所で決め、第3、第4セットを奪い返す。第5セットに入ると、両チームともに素晴らしいレシーブをみせ、会場は1ラリーごとに盛り上がる。岡山が佐々木にボールを集めて緩急織り交ぜた攻撃で得点を重ねると、JTは金杉にボールを集め、バックアタックを含めた攻撃で応戦し、両者一步も譲らない白熱した展開となる。最後はJTが長いラリーから得点を連取してこのセットを制し、2年ぶりに決勝戦進出を決めた。

作成者：山尾 未来